

ユキヤナギ株入れ促成栽培の 切り枝品質を向上させる効果的な湿度管理

福島県農業総合センター 作物園芸部花き科

部門名 花き—その他の花木—水管理・水分管理

担当者 鈴木安和・宗方宏之・鈴木宏和

I 新技術の解説

1 要旨

株入れ促成栽培における12月出荷のユキヤナギは、花数が少ないなどの品質低下が問題となっている。その要因として、搬入時の促成室の乾燥の影響が考えられた。そこで、促成開始時の湿度が切り枝時の花芽の動きに与える影響を明らかにし、効果的な湿度管理法を確立した。

- (1) 促成開始時から室内床土への散水により湿度100%に高めることにより、切り枝時の枝先端部の萌芽数及び有効花蕾数が増加する(表1)。
- (2) 枝先端部の有効花蕾数が増加することにより、出荷時の開花数が増すことで切り枝品質が向上する(図1、2)。

2 期待される効果

12月出荷のユキヤナギの萌芽数及び有効花蕾数が増加し、切り枝品質が向上する。

3 適用範囲

ユキヤナギの株入れ促成栽培を行っている地域(須賀川地域)

4 普及上の留意点

全期間を湿度100%に処理するとムレによる品質低下が懸念されるため、処理期間は9日程度とし、その後は湿度60%程度に下げて管理する。

II 具体的データ等

表1 促成開始時の湿度管理による切り枝品質への影響

処理	萌芽数 (個)	有効花蕾数 (個)
高湿度管理 (湿度100%)	22.2	8.7
慣行 (湿度60%)	19.8	6.5



注1) 萌芽数: 枝先端10cmの右図の1~5の状態の芽数

有効花蕾数: 枝先端10cmの右図の3~5の状態の芽数

注2) 高湿度管理区は促成開始から9日間湿度100%で、その後60%。慣行区は湿度60%一定。



図1 湿度管理の枝先端の影響
(左 慣行 右 高湿度管理)



図2 湿度管理の切り枝全体の影響
(左 慣行 右 高湿度管理)

III その他

1 執筆者

鈴木安和

2 研究課題名

中山間地域における枝物花木類の安定生産

3 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度センター試験成績概要
- (2) 鈴木、宗方(2010)東北農業研究63.173-174